

グループワークでの意見交換について

議員と大学生18名と大学教員3名が3つのグループに分かれ、子どもの居場所について意見交換を実施した。出された意見の概要は、次のとおりである。

1 話し合われた内容（議員が集約）

（1）Aグループ

子どもの遊び場が減り、公園では「ボール遊び禁止」などの規制が増えて、自由に外で遊びにくくなっているとの意見が多くあった。ゲーム機やスマホの普及、少子化、習い事の増加により、外遊びの機会も減少している。かつては公園や友達の家、山や川などの自然で遊んでいたが、今は児童館や図書館など施設があっても、大人側のルールや管理が優先され、子どもにとって「本当の居場所」になっていないという指摘があった。子どもが自分らしく安心して過ごせる場所が必要であり、異年齢交流や、自ら居場所を選べる環境が重要だとの意見が出された。さらに、若者が関わることで子どもが思いきり遊べるため、有償で学生が参加できる仕組みも提案された。学校の体育館や室内スペースを開放することで、暑い日や天候に左右されず遊べる環境づくりも望まれた。

（2）Bグループ

取り組むべき課題を、行政的な支援が必要なもの、自分たちで解決できること、コスト面で解決が可能なものの、人的な支援が必要なものとして分類した。そして、コストよりも人的支援が重要であり、自助よりも行政ができることがあるのではないかとの意見があった。具体的には、自助の取り組みとして、地域行事への積極的な参加が再認識されましたが、地域のつながりをいかに作り上げるかが課題として挙げられた。

また、子どもの居場所の不足、大人の人数の不足に関する懸念が示され、外国籍の子どもたちの居場所づくりの必要性も提案された。さらに、広報については、現在の広報活動が不足しており、横のつながりを強化する案や、口コミや動画投稿を活用したボランティアによる連携策が提案された。

（3）Cグループ

子どもと大人が一緒に活動できる内容の必要性や、思い出になるような活動の内容に関する議論があった。また、居場所に行くきっかけが少ない、または居場所に行くこと自体にハードルがあるとの意見があった。加えて、子どものニーズに合った遊びを充実させることが重要であるとの意見が示された。

他には、公園における遊びの制限や、自治組織及び民間による居場所運営の課題として、人的リソースの不足や運営者の高齢化が指摘された。また、遊びの伝承が行われていないという指摘に加え、子どものニーズ

に沿った仕掛けづくりを進めなければ、子どもに選ばれる居場所づくりにつながらないのではないかとの意見があった。